

【考え・基礎知識】

場面の展開や人間関係の変化、作品に表れているものの見方、考え方等に注目して作品を読み、長く読み継がれている理由について自分の考えを持つ。

【つながり】

友達の考えや、「故郷」について語られた既存の批評文も併せて読み、「故郷」の作品の魅力を批評文としてまとめる。

【応用・ひろがり】

その他の長年読み継がれている作品を選んで読み、その理由を批評文としてまとめる。

◇ 学年 第3学年

◇ 単元名 長年読み継がれてきた作品の魅力を探ろう 「故郷」

◇ 単元の目標 長年読み継がれてきた文学作品について、書かれた背景、場面や登場人物の設定の仕方などを捉えたり、様々な年代の人の感想に触れたりすることで、作品全体への理解を深め、作品の批評文を書くことができる。

◇ 単元の計画 (全10時間)

学習活動	時数	指導上の留意事項
<p>課題の設定 (1)</p> <p>○「故郷」が教科書教材として何十年にも渡って読み継がれてきた作品であることを踏まえて通読し、作品の魅力がどこにあるのか考え、それを明らかにしたいという課題意識を持つ。</p> <p>・「故郷」をはじめとするいくつかの作品が、複数の出版社の教科書に長年掲載され続けていることを知る。</p> <p>・「故郷」の魅力について推測するとともに、それを探る方法について話し合い、様々な視点で作品を読む、様々な年代の人の感想を聞く、既存の「故郷」の批評文を読む等の方法を考える。</p> <p>・話し合ったことを基に、学習計画を立てる。</p>	1	<p>★複数の教科書に共通して掲載されている作品を紹介する際には、掲載が始まった年度から現在に至るまでの状況を年表等にまとめたものを生徒に提示することで、生徒の興味・関心を高めさせるという工夫が効果的である。</p>
<p>情報の収集① (4)</p> <p>○長年読み継がれた「故郷」の魅力を探るという目的意識を持ち、例えば、次のような視点で作品を読む。</p> <p>・作品が書かれた背景、あらすじ、場面や登場人物の設定をおさえるとともに、場面の展開に即して登場人物の関係がどのように変化していったのかを人物相関図にまとめることで、「私」と「閨土」の人間関係の変化をとらえ、そこから考えられる作品の魅力についてまとめる。</p> <p>・情景描写等の優れた叙述の視点から読み、そこから考えられる作品の魅力についてまとめる。</p> <p>・作者の生き方やその当時の社会状況を踏まえ、作品に表れているものの見方や考え方について話し合い、そこから考えられる作品の魅力についてまとめる。</p>	2 1 1	<p>★「故郷」は中学校生活の後半に登場する文学作品である。小学校も含め、これまでの文学的な文章の学習を振り返らせ、どのような読み方をして作品を読み深めてきたのかを出し合わせ、作品の魅力を探る読みの視点の検討に生かす。</p> <p>○毎時間、読む目的と視点を確認させるとともに、授業の終わりには、本時で見つけた「故郷」の魅力という内容でまとめを書かせる。</p>
<p>情報の収集②, 整理・分析 (1)</p> <p>○様々な年代の人の「故郷」の感想や、これまでの「故郷」の批評文や作者である魯迅の伝記等から、作品の評価に関する情報を収集し、自分が気付かなかった作品の魅力について整理・分析する。</p>	1	<p>★同学年の考える作品の魅力だけでなく、様々な年代の人が感じる作品の魅力に触れることで、生徒の考えは深まる。家庭学習の機会を活用し、協働して、様々な年代の人の感想を収集するなどの工夫も考えられる。</p>
<p>まとめ・創造・表現① (1)</p> <p>○「故郷」の魅力についての自分の考えをまとめた批評文を書く。</p>	1	<p>○批評文を読む際には、批評する際に用いられている語彙についても着目させる。</p> <p>○引用等のルールを再確認させる。</p>
<p>振り返り (1)</p> <p>○互いの批評文を交流する。</p>	1	<p>★名作と呼ばれる、長年にわたって読み継がれている作品は多くある。その一つを選び、「故郷」での学習を生かして、作品の魅力を探りながら読み、批評文にまとめさせることで生徒の読みを広げさせたい。</p>
<p>まとめ・創造・表現② (2)</p> <p>○他の作品に読み広げる。</p> <p>・「故郷」で学習した読みの視点を参考にしながら、その他の長年読み継がれている作品を読む。</p> <p>・その他の長年読み継がれている作品の批評文を書き、交流する。</p>	1 1	

「故郷」に関する批評文等の並行読書を行う。